

2018年10月13日

久御山町まちづくりシンポジウム

# 地域のみんなが取り組む これからの地域公共交通

井上 学

# はじめに

## ■人口の減少と少子高齢化の社会

- ・生産年齢人口の減少と高齢者の増加

昭和40年の人口1億人時代とは人口構造が異なる

これまでのように...

補助金で地域の問題を解決することが困難に

- ・子育て世代の獲得合戦

子育て世代の増加は「地域社会」を支えることができる

高齢者を支えるには直接の補助政策ではなく

子育て世代の増加

# はじめに

## ■「高齢者」と呼ばれるけれども

社会で活躍し、高度経済成長期を支えてきた貴重な人材

- ・定年をきっかけに社会参加をしたい人が増加
  - ・外出の頻度も高い
- 「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなく

## アクティブシニア！

アクティブシニアの確約が期待される

# はじめに

## ■バス業界の状況

- ・ドライバー不足（整備士や事務も不足している）  
補助金をもらっても肝心のバスを運行する人がいない
- ・インバウンドの増加 貸切バス需要の増加

## ■地方自治体の状況

- ・1人あたりの仕事量の増加（人員の抑制・業務の増加）

これまでのように、補助金を出して地域の公共交通を運営するモデルが成立しにくくなっている

→これからの地域公共交通をどうする？

# 地域公共交通の変化

## ■国の政策の変化

- ・自治体間を結ぶ基幹路線は一定の補助
- ・自治体内のバスの運行は地域で責任を持つ

## ■交通政策基本法(平成25年)

### 第十一条:国民等の役割

自ら取り組むことができる活動に主体的に取り組むよう努める

交通に関する施策に協力するよう努める

# 地域公共交通の変化

## ■市民からの要望という一方通行

- ・バス・自治体・市民の相互理解を進めていきましょう

これからの公共交通は

「地域みんなで公共交通について考える時代」

# これからの地域公共交通の ありかた

■ 地域住民が協力する地域ほどバスが維持される

・ 汗かく地域ほど魅力が増していく

■ 地域住民の力でバスが運行される地域が増加している

例：西宮市、宇治市、河内長野市、徳島市、八幡浜市など



応神ふれあいバスHP [https://www.city.tokushima.tokushima.jp/kurashi/koutsu/ojin\\_fureaibus.html](https://www.city.tokushima.tokushima.jp/kurashi/koutsu/ojin_fureaibus.html)

# これからの地域公共交通の ありかた

■「こんなバスが走ってほしい」「こんな公共交通  
を走らせたい」

・そのために「私は何ができるか」  
考えましょう

★キーワードは

# 「Happiness」

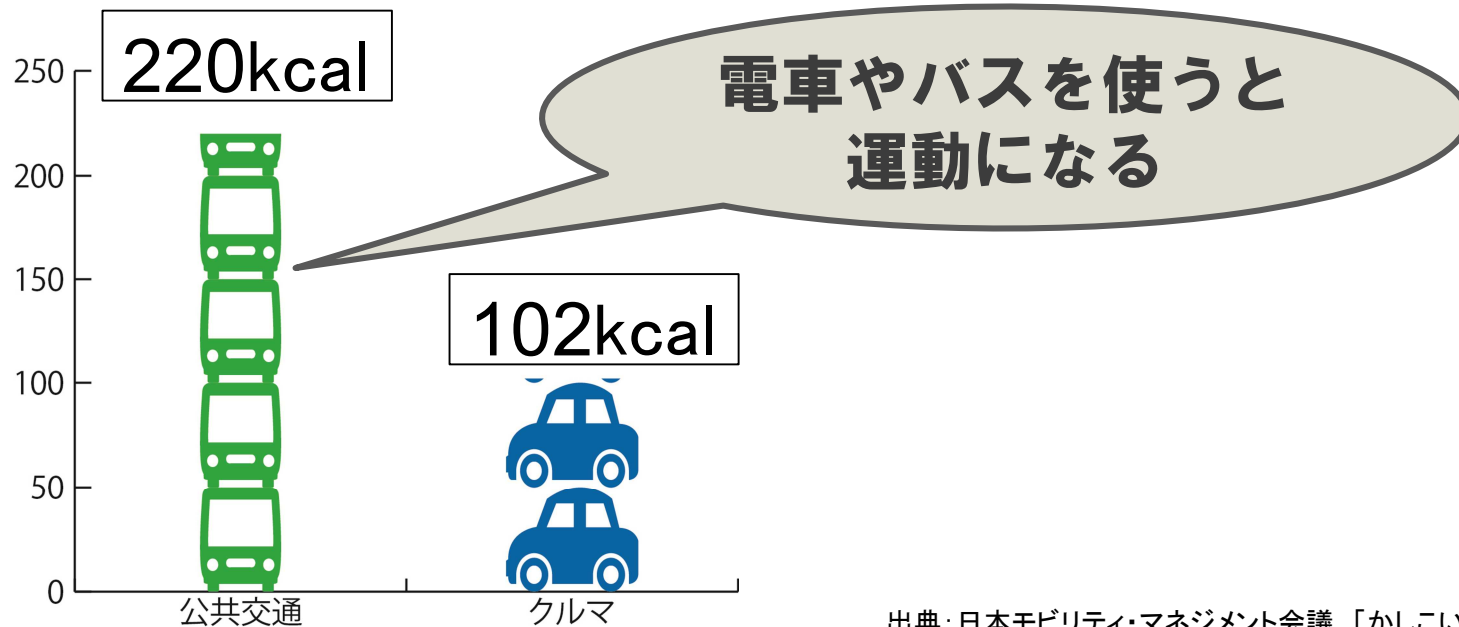


# みんなに伝えてください

## ■車があるからバスを使わない

・・・車が使えなくなった時にバスを使おう

→車が運転できなくなったらバス・電車に乗れません！



移動にともなう消費カロリー (kcal)

出典：日本モビリティ・マネジメント会議 「かしこいクルマの使い方を考える」ための基礎データ  
(<https://www.jcomm.or.jp/document/data/>)内の「クルマ利用と「健康・ダイエット」」

# みなさんの**HAPPINESS**を 考えるチャンスです

■これからどんな街にしていきたいか

■子どもや孫にどんな街を残したいか

→まちづくりにおいて移動はとても重要なキーワードです

**どんな移動が私たちの街や暮らしに  
適しているか考えましょう**